５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

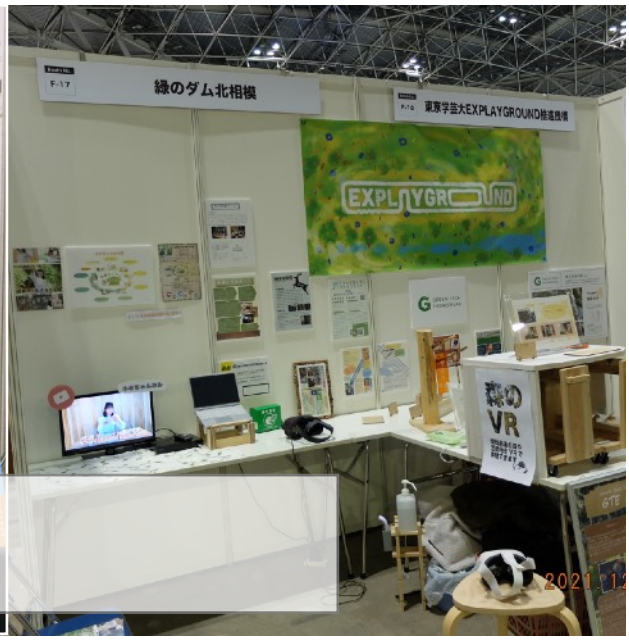
知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp



No.548-549
エコプロダクツ展に出展しました

【イベント報告】
エコプロ展に出展

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

一昨年に続き（昨年はエコプロ展自体が中止）、東京ビックサイトでのエコプロダクツ展に、東京学芸大Expalayground推進機構とともに展示を行いました。主な展示内容は、日頃の間伐材活用を行っているチームごとの制作物展示と活動紹介ポスター、定例活動を行なっている知足の森を中心としたVR体験、さらに学芸大の学生さんでYouTubeなどを通して木育を行っているキキちゃんこと前田さんの紹介展示です。キキちゃんには先月の定例活動に参加してもらい、すでに２本のYouTubeを公開してもらっています。展示は参加者が投票する形にしました。当日は、本会メンバーだけでなく、学芸大の先生方、住友林業のみなさまにもお越しいただき、参加者

に活動紹介を行いました。中学生も初日が水曜日で学校が早く終わったため、夕方にブースに立って説明をしました。

３日間で相模原市を始め行政のみなさまや、日頃からご支援いただいているセブン-イレブン記念財団の方、今後定例活動への参加を検討いただいている企業の方、また、多くの学芸大OBの方にも展示を見ていただくことができました。日頃のSNS発信とはまた違った活動広報ができ、今後の活動がより発展すると思われます。

宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】
知足の森

11月第１日曜日は午前・午後ともに間伐を行った。人が多く、教育実習生の方も来て下さったので、私は張り切っていた。左奥の斜面の木を主に切ったのだが、細く切るのも簡単だろうと思っていた木がものすごく硬い木であり、また木を倒す空間があまりなかったため、それを探すのにも苦労した。また、切った木を何本かに分割する「玉切り」も大変だった。午後は午前と異なり3人チームで活動をした。私のチームは午前と同じく硬くて細い木を選んでしまい、またこのチームの2年生が自分しかおらず、自分主導で木を切ったので大変だった。

今回木を切るのに苦戦した原因は、「受け口」を作ることに失敗したことだと思う。受け口とは木を切る方向に斜めに入れる切込みのことで、今回はそれを深くしすぎたことで木の伐採まで時間がかかってしまったと分かった。今日は間伐の技術の練習が多く出来たので良い経験となった。自分は2年目だが間伐の技術がまだまだ未熟なので、これからも練習を続けていきたい。

古屋　裕一朗（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

11月第３日曜日の活動では相模湖の森で沢付近の竹を切りました。太い竹は枝払いをして並べ、細い竹は「チッパー」という機械を使用して細かく砕きました。最初は森の奥が見えないくらいに生い茂っていた竹が活動終了時にはきれいに並べられ、森もとてもすっきりしていました。

私は主にチッパーで竹を砕いたのですが、竹を切る人たちのスピードが速くどんどん周りに竹がたまっていってしまい大変でした。それでも手で枝を払って片付けるよりも断然効率がよく、さらに途中で竹の太さごとに先に選別しておくとごちゃ混ぜになっているよりもだいぶ早く作業が速く進むようになり、驚きました。

また、少し竹も切らせてもらったのですが、急斜面で草も多く安定した足場を見つけるのも大変で、パッパッと切って運んでしまう人たちはすごいなと思いました。 いつもはもっと暗い森の中なので太陽が見えないのですが今日の作業では空がよく見えていて新鮮に感じました。

平戸　華凛
（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

桜井尚武の森のコラム

「クロマツ(*Pinus thunbergii*)とアカマツ(*P.densiflora*)」

図1　クロマツ

20200201沼津御用邸

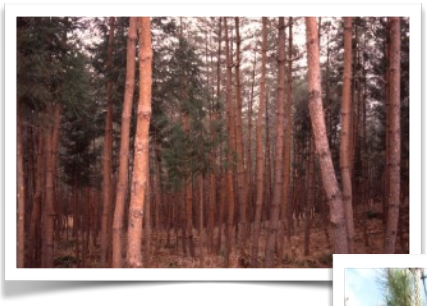


図2　アカマツ

島根公社造林地

図3　クロマツの白い冬芽と果実

20100514湘南海岸砂防林

図4　アカマツの赤い冬芽と果実、雄花

20070401九州大学構内

共にマツ科の大高木で直径2m以上、樹高50mにもなります。クロマツは本州、四国、九州、朝鮮半島南部の主に海岸沿いに分布します。日本では内陸の標高900m位の山地帯にも見られるといいます、アカマツは北海道苫小牧から本州、四国、九州鹿児島県屋久島まで、朝鮮、中国南部に分布し、海岸沿いにも比較的普通にみられます。内陸の標高2,000m位の亜高山帯下部にまで分布します。樹皮が亀甲状に割れ、それが黒みがかっていて幹全体を覆うのがクロマツ(図1)、幹上方の亀甲状が目立たない部分を赤味の強い樹皮が覆うのがアカマツです(図2)。また冬芽の鱗片の白いのがクロマツ(図3)、赤いのがアカマツ(図4)とも見分けられます。両種とも球果は受粉翌年の秋に熟すので新しい当年の球果と今年成熟する球果の付いている枝を見ることができます(図3、4)。短枝に2本束生する葉は、クロマツはアカマツより硬いというのも見分けのための特性ですが、これだけでは見分けにくい場合が多々あります。両種とも光要求度が高く陽樹とも先駆種とも呼ばれ日陰では育ちません。

この両種は比較的簡単に雑種を作ります。クロマツの性質が強く目立つものをアイグロマツ、アカマツの性質が目立つものをアイアカマツと呼びました。1970年代まで盛んだった雑種強勢（クロロシス）を利用して成長の良い松を開発しようという育種研究は時代の流れの中で止まったままです。

お正月に飾る門松は山の頂きの松の木に降臨する歳神様をお招きする依り代（よりしろ）の松を人里に建てるもので豊年をはじめ様々な福を招く飾りです。この松にクロマツを使う場合が多いようです。しかし山の頂きというのはアカマツの主分布領域ですから実際の種特性や民俗を知っている人がこの飾りを作るとしたらアカマツを使うことでしょう。大きな木ですから構造材などにも多用されます。用材としてはアカマツの方が軽軟ですが材質がよくて使い勝手がよいと好まれるようです。

桜井　尚武（本会、会員）

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

東京学芸大Explayground推進機構との連携は間伐材の活用事業だけにとどまらず、今年度は同大の社会教育実習の受け入れも実施しています。学芸大はいわゆる小中高の先生になるための教員免許と、公民館や児童館などで勤務する社会教育士の課程もあります。その社会教育の実習の一環でExplaygroundが受け入れた学生さんにも森での活動、実習をしていただきました。参加した学生の感想をご紹介します。

本日は、間伐の活動に実習の一環で参加させていただきました。午前中はランダムに分かれた6人ほどのグループで、午後はさらに３人ほどのグループに分かれて、間伐を行いました。普段関わりのない中学生

と活動させていただき、新鮮でした。どうやら中学生同士もあまり関わりのないメンバーだったようで初めはぎこちなさがありましたが、活動を通して少しずつ親しくなれたのではないでしょうか。いつもとは違うメンバーで活動を行う難しさを感じながらも、新たな学びがあったように思います。

また、間伐時に危険な範囲に同グループの中学生がおり、先生方にご指摘いただくことが多々ありました。自分の身は自分で守るのはもちろんですが、私自身、知識不足、注意不足で思い至りませんでした。自然との関わりには危険が隣り合わせであることを改めて肝に銘じ、広い視野をもって今後の実習に参加していきたいです。

中学生に交じって作業をさせていただきましたが、同じ木であっても、木の健康さや硬さ、重心、立ち方、木の位置、受け口の作り方などで、間伐のしやすさがこれほどまでも変わってくるのかと驚きました。森に不慣れな私とは対照的に、斜面の足場の安定しない中で黙々と作業を進めて、次々に間伐を進めていく中学生の姿には頼もしさがありました。

東京学芸大学２年生女子

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン